

小田原市
「緑の分権改革」調査事業の
取り組みについて



小田原の恵まれた自然環境を守り大きく育てていくために



小田原市環境部環境政策課

全体の構成

- I 小田原市の紹介及びねらい
- II これまでの地域活性化への取り組み内容
- III 調査事業の進捗状況
- IV 調査事業における課題の抽出
- V IVの課題への対応策の検討、提言
- VI まとめ

2 「緑の分権改革」調査事業 小田原市

I 小田原市の紹介及びねらい
1 小田原市の位置

- 本市は、神奈川県西部に位置し、市庁舎は北緯35度15分41秒、東経139度9分21秒にあります。
- 市域は、東西17.5km、南北16.9kmで、南西部は真鶴町、湯河原町、箱根町と、北部は南足柄市、開成町、大井町と、東部は中井町、二宮町とそれぞれ境を接しています。
- 面積は114.06km²で、神奈川県の面積の4.7%を占め、県内の市としては、横浜市、相模原市、川崎市に次いで4番目の広さを有しています。

3 「緑の分権改革」調査事業 小田原市

2 小田原市の地形・気候

- 市の南西部が箱根連山につながる山地であり、東部は大磯丘陵につながる丘陵地帯になっています。市の中央には酒匂川が南北に流れて足柄平野を形成しており、南部は相模湾に面しています。
- この風光明媚な自然環境と夏は涼しく冬は暖かいという気候により、明治から昭和初期にかけて、保養地として多くの著名人に愛されてきました。
- 背後に山地を控え、南は相模湾に臨んでいるので、1年を通して気候は温暖です。
- 夏は東京より涼しく冬は東京より暖かく、雪が降ることはめったにありません。黒潮の影響を受けたこの温暖な気候と適度な雨量が、生活の快適さだけでなく、梅やみかんをはじめとした多くの農産物の成長を支えています。

4 「緑の分権改革」調査事業 小田原市

3 小田原市の特性

- 首都圏の西端、都市的な生活環境
- 山、森、川、海、田園風景、里地里山・・・自然環境
- 歴史的な街道・街並み・・・文化・歴史・景観
⇒コンパクトなエリアに、様々な環境要素がオールインワンに備わった都市、全国的にも稀有な地域
- 人口減少、少子高齢化、長引く景気の低迷、産業の空洞化
- 環境資源の劣化と埋もれた地域資源の活用

5 「緑の分権改革」調査事業 小田原市

4 小田原の課題

- **【新しい地域の将来像】**国や地方の財政の悪化など経済情勢や社会構造が変転する中、従来の考え方や方法の延長線上に未来を描くことが難しくなっている。
- **【分野別課題】**小田原市は、福祉や医療体制への不安、子育てを取り巻く諸問題、水源となる山林の荒廃、地域経済の低迷、中心市街地のにぎわいの喪失、厳しい財政状況のもとでの大型開発案件など全国の各地域に共通する課題や地域固有の問題を抱えており、これまで地域を支え、全国的にも高率な自治会組織率などをもつ小田原市の身近なコミュニティの絆の弱まりと担い手不足や人々のかかわりの希薄化などが危惧されている。
⇒ **「地域の自給力と創富力を高める地域主権型社会」**
地域の潜在力を活かし自立度の高い都市を目指す

6 「緑の分権改革」調査事業 小田原市

